

まちづくり検討会議からの提言について（概要）

平成 30 年 12 月 19 日(水)に開催されたまちづくり検討会議の全体会議で、各地域の検討会議から市長へ提出された提言の概要については下記の通りです。

◎城端地域

〔複合交流施設新設による地域住民が活発に活動できる拠点づくり〕

→城端庁舎、図書館、美山荘・保健センター、勤労青少年ホーム、起業家支援センターなど、地域内の老朽化施設を取り壊し、それらにある組織や機能を集約。地域情報の集約・発信などの機能を付加した新たなにぎわい拠点として再編統合する

＜複合交流施設新設で目指す方向性＞

① 世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり

→住民や観光客が気軽に集い交流する、オープンで多用途に使える拠点の整備

② 地域の情報を共有し語り合える仕組みづくり

→まちのコンシェルジュが地域情報を集約し、求めている人に的確に届ける仕組みを確立

③ やりたいことが実践できて活気あふれるにぎわいづくり

→「人・出逢い・交流」の拠点、ランドマークとしての城端型「まちのえき」

◎井波地域

〔日本遺産・井波の魅力発信（周遊観光動線の設定）〕

日本遺産「井波彫刻」をはじめ、伝統的な歴史や豊かな自然に根ざした地域の魅力を発信、豊富な観光資源の利活用で新たな交流観光のかたちを確立

〔コンパクトで生活しやすいまちづくり〕

地域内の公共施設等の機能を井波庁舎と総合文化センターに集約、地域内を循環する公共交通網の整備、村部・町部の連携による産地直送販売網の確立で地域を活性化

〔庁舎を中心とした複合交流エリアの整備〕

庁舎を、多世代が自由に集い交流できるコミュニティスペース、日本遺産井波彫刻の魅力発信拠点、観光客向け総合案内所の機能を有する、地域の魅力を発信する民間主導型複合交流施設として整備

◎福野地域

〔まちの優位性を活かした新しい核となる拠点づくり〕

日常的に幼児から高齢者が気軽に集える地域活動拠点として、まちづくりの新たな核となる複合交流施設の新設、民間活力の導入による持続可能な施設運営

〔駅周辺・空き家・空き店舗・空き地の活用〕

まちなかの空き家、空き店舗、空き地などを使える地域資源として活用した、公民連携によるまちの使い方を変えるコンテンツ作りを通した「リノベーションまちづくり」

〔人口減少を見据えた次世代に繋がる持続可能なまちづくり〕

20、30 年先を見据え、若い世代にとって魅力ある地域（「住む場所」として選択される持続可能なまちづくり施策の推進）を構築するため、主体的に考え行動する市民を育成

◎福光地域

〔今あるものを活かしたにぎわいづくり〕

① 情報の集約と発信できる居場所（づくり）

人と情報が交流することで共感を得られ、多様な相談の受け皿や、行政や関係機関とのパイプ役となり、市民活動を支援する居場所づくり

② まちなかエリアを回遊できるまちづくり

駅・庁舎周辺～福祉会館周辺～中央図書館を結ぶ回遊エリア「福福福（ふくみつ）トライアングル」で過ごす豊かな時間を基礎として、幅広い年代の住民が集い、まちの歴史を感じ、健康づくりや楽しい環境づくりの実践で、まちなかを活性化

③ 里山とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

豊かな自然にあふれた里山とまちなかの関係や取り組みを共有し、魅力を再発見し「福福福トライアングル」とのつながりを深化

《今後の進め方》

庁内検討部会を設けて今年度中に公共施設再編計画との整合性や維持管理方法、市全体のバランス、財政面などの課題整理や優先度の設定など今後の進め方を検討。新年度 4 月に新たな係を配置し、構想に係る市民、学識経験者、関係団体等を交えた検討組織を設立。検討組織での協議検討内容を踏まえた上で順次、予算確保・実施設計・施設整備等を行い、提言に基づく具体的なまちづくりの実現を目指します。